

新しい百年に向けて力強い第一歩を

年頭の「ごあいさつ」

佐世保市長 光武 顕



市制百周年開幕記念式典

一年を振り返って

明けましておめでとございます。ことしも市民の皆さまが、ご家族おそろいで幸せにお過ごしになられますようお願いいたします。さて、日本全体を覆う閉塞感、依然晴れることなく昨年も続きました。右肩上がりの経済が低迷してから既に13年、失業率が過去最悪の値を示した年でもありました。不況は地方に深刻な事態をもたらしています。地方財政は年々厳し

さを増し、税収も予定を下回る状況が常態化しようとしています。残念ながら本市も例外ではありません。

市制百周年記念事業

そのような中、佐世保市は市制施行百周年を迎えました。厳しい時代ではありますが、この節目に先人たちが築き上げた百年を想い、さらなる百年の未来への一歩を力強く踏み出したい。そう願って、

4月1日、市内外約二千人のお客さまをお迎えして開幕記念式典を挙行しました。この日から、ことし3月まで数々の記念イベントが展開されています。中でも、11月17日の「第22回全国豊かな海づくり大会」は、天皇皇后両陛下ご臨席の下、盛大に開催されました。またとない小春日和に恵まれ、大勢の市民の皆さまが喜びの中で奉迎に参加された光景は感動的でした。

市民の一体感

また、市内18の地区公民館単位で行われている地域イベントはその地域ならではの趣向を凝らしたものとなりました。そして、各地区住民が飛躍年広場に集い、それぞれの特産物や伝統芸能などを出し合う「させぼわがまち博覧会」は、市民の一体感を醸成する上で大きな役割を果たしたと思います。

市政遂行は 明確な座標軸を持って

歴史はこれからも齢を重ねていきます。世界の情勢、国力の盛衰、そうしたこと深くかわわりを持っていくでしょう。しかし、その流れにただ押し流されるだけでなく、ある一定の明確な座標軸を持つことも大切です。

その一つは、基地と共存できる港のすみ分けです。新返還6項目の実現もほば先が見えてきました。前畑弾薬庫の針尾島弾薬集積所への移転返還は、なお関係者の皆さんのご理解が不可欠ですが、昨年7月、一応推移を見守るといこうとでご了承いただきました。今後、国には誠意を持って対応してもらえらるものと強く期待しております。



「全国豊かな海づくり大会」で三浦岸壁に着岸した大型帆船「海王丸」(左手)と海洋調査船「なつしま」



佐世保市街地遠望

コンベンション事業は 観光活性化の鍵

昨年10月31日から2日間、「全国都市問題会議」がアルカスSASEBOで開催され、約二千人の参加がありました。

大会終了後、参加者は約20台のバスでそれぞれ九十九島、ハウステンボスへと向かいました。ようやく、佐世保市でもこうしたコンベンションが可能になったのです。これら2つの素晴らしい観光地を街の中心部と結び付け、観光の経済効果を一層高めるといふ、かねての願いが可能となったのです。ことしはもう既に、二千人規模の会議が4件予定されています。コンベンションによる経済波及効果は一人当たり約十四万二千元で、



全国都市問題会議



開発が進むJR佐世保駅周辺



アルカス SASEBO

一般の観光客に比べると、約2・6倍と言われています。4月に予定されているコンベンション協会の発足は、佐世保市の観光を飛躍的に伸ばすものと期待しております。コンベンション「ある特定の目的で多数の人が集まる会議など

全国高校総体の年

また、ことしは本県で全国高等学校総合体育大会があります。本市でも女子バレーボールなど5種目が開催され、夏休み期間中に、約二万人の高校生とその関係者が訪れる予定です。これらのお客さんは本市を再び訪れるリピーターとなる可能性が高いのです。観光産業は、本市にとって大きな収入源です。「おもてなしの心」の重要性をもう一度市民の皆さん

と一緒に考えてみたいと思います。

教育問題は すべて市民の手で

来月には、「佐世保市の教育を考える市民会議」から、1年間にわたる議論の結果を、答申という形で提案していただきます。

既に出していただいた中間報告の中にその骨組みが見えますが、こうした答申をどう具体的に市政に生かすことができるのか、特に財政が厳しい折ではありますが、大きな決断が必要となります。

しかし、教育のレベルアップは、日本がなお世界の一等国としての誇りを持つ上で大切なことです。「今どきの子は」などと冷めた気持ちではなく、大人の責任として教育にすべての市民がかかわっていく、そんな自覚が求められる時



佐世保市の教育を考える市民会議

代になってきているのではないのでしょうか。数多くの課題がある中、特に基地、観光、教育などに絞って新春の所感とさせていただきます。

この活気、この高揚を 次世代に引き継ぐ

市制施行百周年という輝かしい年度も、残り3カ月となりました。この活気、この高揚を決して一年限りで終わらせることなく、次世代に引き継いでいかなければなりません。

この変化の激しい時代に対応するため、市民と行政との協働関係を構築し、市民の視点に立った分かりやすい行政運営の実現を目指します。市民の皆さまと一緒に、次なる百年に向けての出発の年にしたいと思えます。